

子どもの未来応援団報告書（伊那谷再発見）

表題：ぼくらのフロアホッケー2023

学校・団体名：駒ヶ根市立赤穂東小学校

活動グループ名：3年2組

担当者・教諭名：唐澤 秀司

活動人数：35人

（1）活動を始めた理由

自分たちが住んでいる駒ヶ根市を学習していく中で、駒ヶ根市は「ホッケーの街」と呼ばれていくことを知った。なぜ駒ヶ根市は「ホッケーの街」と呼ばれているのか、ホッケーとはどんなスポーツなのかを知りたいと願い、学習がスタートした。

（2）活動内容・活動の写真（カラー）

①フロアホッケーとの出会い

今年度行う、「総合的な学習の時間」のテーマを考えた。テーマは何でもよいわけではなく、社会の学習で行っていた「駒ヶ根市（わたしたちの住んでいる街）」に関係することに絞って考えた。保護者の方へのインタビューなども行い、子どもたちから出されたのは「かっぱ館（駒ヶ根市の施設）」、「地域探検」、「ホッケー」だった。特にホッケーについては、子どもたちも知らなかったが、保護者へのインタビューから『駒ヶ根市はホッケーの街』と呼ばれていることを知る。なぜ『ホッケーの街』と呼ばれるのか調べてみることにした。調べてみると、昔、長野県で国民体育大会が開かれたときに、駒ヶ根市はホッケーの会場になった。その関係で、中学や高校にホッケー部があったくらいホッケーが盛んだったことがわかった。ホッケーを知りたいと思い、動画を見ると、楽しそうなスポーツだと気付き、さらにホッケーのことを知り、自分たちもホッケーをやりたいと思い、学習がスタートした。

②調べ学習から道具作り

ホッケーのことを調べていくうちに、ホッケーには「アイスホッケー」、「フロアホッケー」など様々な種類があることがわかった。また、気を付けてみると、フロアホッケーの案内が駒ヶ根市に配付されていたり、地元チームの活動紹介がポスターになっていたりに気が付いた。また、日本では知名度が高くないが、世界では人気のスポーツだということも知った。早く自分たちもフロアホッケーをしたいと願い、準備を始めようとする。フロアホッケーには道具が必要だと知り、特に「スティック」と呼ばれる道具が必須なことを知る。購入を試みるが、1本が高額なため、購入は難しいと落胆する。そんな時に、地元でフロアホッケーを教えている方（坂間さん）に相談し、「必ず正規品でプレーをしなくてもフロアホッケーと呼ぶ活動になる」という助言をいただき、スティックを自作していくことになった。材料は身近にある段ボールとガムテープで作った。手作りのマイスティックを使用して、フロアホッケーをやってみたが、すぐに壊れてしまい、上手くいかなかった。



マイスティック作りの様子

③工夫と挑戦

すぐに壊れてしまったスティックだったが、どうやったら丈夫なスティックができるのか考えた。段ボールが思っていたよりも耐久性が弱く、代替りの材料を探すことになった。近くの

ホームセンターにお願いして、店内の見学をさせてもらった。「丈夫（簡単に折れない）」、「軽い（自分たちが長時間持てる）」、「安い（金額が）」に気を付けて選んだ結果、塩ビパイプを材料にすることに決めた。その後、塩ビパイプを実際に握ったり、振ったりしながら、自分たちに合う長さ、太さを選び、今回は「直径が約1、5 cmで長さ80 cm」の塩ビパイプを使用することにした。塩ビパイプを使用し、前回のスティックで特に損傷の激しかった部位の強化を意識して、2本目のマイスティックを完成させた。今回のスティックは、フロアホッケーの練習や試合をしても壊れなかった。好きなテープ等で模様をつけ、世界に一本だけのマイスティックが完成した。

④フロアホッケーの楽しさを知る

自分たちのマイスティックでフロアホッケーの試合をしたが、細かいルールがわからない、公平に見る審判がいないと上手いいかないことに気付く。そこで、以前、相談した坂間さんをお願いし、フロアホッケーを教えてくださいとお願いした。実際にフロアホッケーを教える方に教えていただくと、思っていた以上にフロアホッケーが楽しいスポーツだと知り、試合も大いに盛り上がった。



講師の先生をお招きしフロアホッケーの試合をする様子

子どもたちの願いから月に2回ほどのペースで来校していただき、フロアホッケーを教えていただいた。講師の先生から「とても上手になっている」と褒めていただいた。



このフロアホッケーの楽しさをより多くの方に知ってもらいたいと願い、自分たちの学習した過程を劇にして、全校の前で発表したり、伊那谷再発見（2月4日箕輪町文化センター）で発表したりした。

伊那谷再発見（2月4日箕輪町文化センター）の発表の様子

（4）活動結果

- ・自分たちの素朴な疑問からこんな大きな学習になる楽しさを子どもたちは知ることができた。これからも小さな疑問を大切にしていこう。
- ・上手いいかないことがあった時に、ただ諦めるのではなく、自分たちで問題を解決していく方法に気付くことができた。
- ・実際にフロアホッケーをやってみると、「見るのとやるのでは全然違った」という子どもの感想のように、体験でしか味わえない学習ができた。
- ・劇にして発表することを通して、自分たちの学習を振り返ることができた。また見る人を意識して、『思いを伝えることの楽しさ、難しさ』を感じる貴重な機会となった。
- ・自分たちの活動は、校長先生や用務員さん、ホームセンターなど地域のお店、フロアホッケーの講師の方など、多くの方の支えや協力があったことに、感謝の気持ちをもつことができた。
- ・自分たちの地元にはフロアホッケーに関わる格好いい大人がいることを知り、自分も将来、こんな大人になりたいと夢や希望をもつことができた。
- ・フロアホッケーを通して、こんな楽しい活動が自分たちの住む駒ヶ根市の特徴だと知り、今まで以上に駒ヶ根市が好きになると同時に、誇りをもつことができた。